

## 総合講義Ⅳ

責任者・コーディネーター	薬物代謝動態学講座 小澤 正吾 教授		
担当講座・学科(分野)	薬物代謝動態学講座、創剤学講座、薬剤治療学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

総合講義は、6年間の薬学教育の集大成を目指して、薬剤師法に規定される「薬剤師として必要な知識及び技能」の再確認を行う。総合講義Ⅳでは、医療薬学分野の生物薬剤学、製剤学、薬物治療に関して各担当講座が分担して講義を行い、薬剤師及び薬学関連分野での専門職において必要とされる知識を復習する。授業内容は各講座間で効率よく配慮し、最終学年の限られた時間を有効に活用して薬学教育の総まとめとする。

### ・一般目標（GIO）

薬物動態は薬物の有効性・安全性の重要な要因である。薬物療法の施行にあたり、患者の薬物代謝能の変動要因に十分配慮できる能力の修得を確認する。

創剤学分野における講義、研究のまとめとして、従来の各製剤、DDS（Drug Delivery System）技術によるDDS製剤について、社会的ニーズ、QOL、技術基盤に関し総合的に解説する。また、新たなDDS製剤について紹介する。

患者の臨床検査値、病歴・薬歴に基づいて処方されている薬剤の適否を考え、より適切な薬剤がないか、薬剤の治療効果を上げるために栄養条件を考慮した方がよいのではないかなど、問題点の発見と解決能力を修得させる。

### ・到達目標（SBO）

1. 医薬品や化学物質などによっておこる有害な生体への影響を回避するための方策を列挙できる。
2. 代表的な薬物の作用機序、生体内運命に配慮した薬物療法の至適化の方策を提案できる。
3. 薬物治療の個別化において配慮すべき点を列挙し、個々の患者に対する最適な投与計画を立案できる。
4. 薬物と製剤材料の性質を説明できる。
5. 薬物や製剤材料の物性を説明できる。
6. 薬物や製剤材料を適切に取扱うことができる。
7. 製剤の種類、有効性、安全性、品質について説明できる。
8. 医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製できる。
9. 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSについて概説できる。（☆）
10. 患者の病歴・薬歴、臨床検査値に基づき、最適な薬の選択、用法・用量の設定を施行できる。
11. 薬物治療の最適化に役立つ栄養管理を立案できる。

### ・講義日程

（矢）東 201 2-A 講義室、（矢）東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
8/30	木	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬物や化学物質の生体への影響
9/7	金	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬物の作用機構、薬物動態と薬物治療
9/14	金	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	個別化薬物療法と投与計画

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/20	木	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	医薬品開発におけるDDSの位置付け
10/4	木	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	院内製剤とDDS
10/11	木	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	新剤形創出のコンセプト
10/18	木	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	代表的疾患における治療薬の最適化
10/25	木	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	患者の臨床検査値、病歴、薬歴に基づく適切な薬剤治療計画の設定
11/8	木	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	薬物治療に有用な栄養管理

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床薬物動態学：臨床薬理学・薬物療法の基礎として改訂第4版	加藤 隆一 著	南江堂 (定価 5,985 円)	2010
教	製剤学 改訂第5版（創剤学 I、II教科書）サイエンス（創剤学 I、II教科書）	四ッ柳智久、他編集	南江堂 (定価 5,700 円)	2007
教	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2008
教	わかりやすい疾患と処方薬の解説 2010（薬剤治療学 II教科書）	齋藤 康 監修	アークメディア (定価 6,300 円)	2009

・成績評価方法

出席状況、聴講態度、レポート、定期試験等から総合的に評価する。